

「解答例等」・「出題の意図」

研究科・選抜区分・専攻等	2026 年度 法学研究科 （選抜区分：一般選抜【夏期日程】） 研究者コース (科目：政治学)
出題の意図 (評価のポイント)	民主政治の最も基幹的なルールの一つである選挙制度について、国内の政治学学習者にとって最も身近であろう衆議院の具体的な制度を題材に、その理解を問う問題である。 ① は、1994 年の選挙制度改革前に採用されていた単記非移譲式複数定数制（中選挙区制）、改革後に採用された混合並立制（小選挙区比例代表並立制）についてその「概要」の説明を求める基本的問題である。選挙制度には極めて多様な側面があるが、比較政治学においては、議席決定方式/投票方式/選挙区定数という三つの面からまずその概要を把握することが基本であり、こうした各要素への過不足のない言及が求められる。なお、実際の議席の決定という観点からは、改革後の並立制について、いわゆる重複立候補と惜敗率の問題に触れることも当然期待されよう。 ② は、①で述べた二つの選挙制度が日本政治にもたらした影響について、特に政党への影響に着目して論じさせる問題である。これは 90 年代以降の我が国の政治学においてとりわけ多くの議論があった問題であり、様々な論点に言及することが期待される。例えば、中選挙区制における自由民主党の候補者擁立戦略、並立制における政党投票誘因の高まりといわゆる汚染効果の問題などを指摘しながら、政党システムの比例性や政党組織の集権/分権性への影響を検討することは、最低限必要であろう。